

高原の風だより

2026（令和8）年5月発行 <第33号>

木曽町一般会計

当初予算 100 億 6000 万円

地域の持続可能な発展目指す

木曽町にとって大きな転換点となる令和8年度予算などが、3月議会で可決されました。一般会計は100億6000万円です。

これまでの施設整備中心の取り組みから、「人や暮らしを支える施策」へと軸足を移し、持続可能な地域づくりを進める内容となっています。

今回の予算は、新たに就任した加藤真和町長にとって初めての編成であり、議会も改選により12人中半数が新人という新しい体制のもとで審議されました。また、これまで活用してきた合併特例債（有利な借入制度）が終了し、財政運営も新たな段階に入っています。

こうした中で町長の公約に基づく事業も具体的に盛り込まれました。ここでは議会の視点から主なポイントを分かりやすくお伝えします。

木曽馬の里再整備

～繁殖環境整備と魅力向上 目指す～

6,020 万円

木曽馬は私たちの町が全国に誇れる地域資源です。現在、全国でも150頭余りとその数が少なく、その保存と継承は私たちの責務です。

昭和57年に県の天然記念物に指定された木曽馬は、開田高原の木曽馬の里で40頭余り飼育されていますが、増頭が大きな課題になっています。

そこで町では木曽馬の里の再整備により保存活動を強化します。本年度は6,020万円を投じ、草地造成や牧柵、乗馬受付施設などを整備します。このうち約半分はJRA（日本中央競馬会）特別振興資金

事業の支援を受け、2年間で約1億2000万円になります。再整備により繁殖環境の改善とともに、観光や体験の場としての魅力向上を図ります。

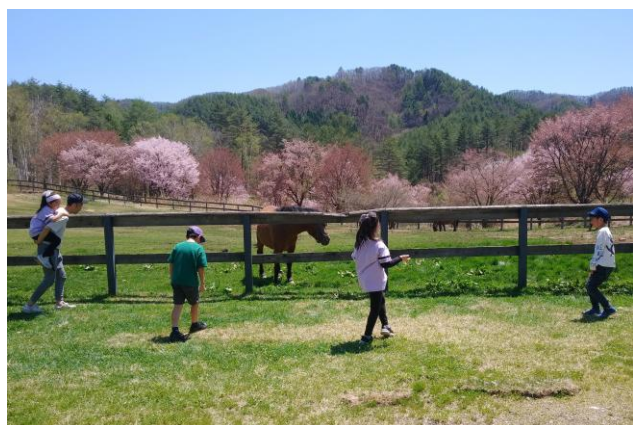
また、開田小学校や木曽支援学校（旧木曽養護学校）では、子どもたちが馬と触れ合う活動が行われており、命の大切さを学ぶ貴重な機会となっています。

一方で、飼料代や人件費などの維持コストは今後さらに増加が見込まれます。経費の削減に努めるとともに、体験事業の充実などにより収益確保にも取り組む必要があります。

木曽馬を守り、次の世代に引き継ぐため維持可能な形での活用を進めてまいります。



早春の暖かな日差しを浴びて草を食む木曽馬たち（木曽馬の里）



木曽馬と触れ合う子どもたち（木曽馬の里）

住民の暮らしを守る予算へ

いつまでもこの町で暮らすために

移動スーパー「きそ丸君」運行 ～高齢者の買い物支援～

500万円

少子高齢化により人口減少が続く中、さまざまな影響が出ています。その一つが、身近な商店の減少です。開田高原でもかつて6軒ほどあった商店が半分以上となり、日常の買い物にも車での移動が必要な状況になっています。特に困るのは、交通手段を持たない高齢者の方々です。松本から民間の移動購買車が週に数回木曽町へ来ていますが、地域の要望に応えられない状況だといえます。

そこで町では今年、高齢者の買い物支援として、三岳地域で移動スーパー「きそ丸君」の運行を開始する予定です。事業費は約500万円で現在、詳細を詰めています。地域を巡回し、食料品や日用品の販売を行う計画です。

高齢者が安心して暮らし続けられる地域づくりのため、実効性のある支援となるように取り組んでまいります。



民間の移動購買車（木曽町新開）

#木曽ひろめ隊 創設 ～職員41人が町の魅力を発信～

510万円

町の魅力を職員自ら発信する新たな取り組み「#（ハッシュタグ）木曽ひろめ隊」がスタートしました。



スマートフォンで風景を撮影する様子（イメージ） 本格稼働する予定です。

これは加藤町長の公約の一つで、庁内に発信チームを立ち上げ、町のさまざまな情報を広く届けていくものです。3月31日には役場で結成式が行われ、企画や観光商工だけに限らず、課を超えて応募した41人の職員に任命書が手渡されました。

隊員はそれぞれの業務のかたわら、季節の風景やイベント、地域の日常などの情報を収集し、SNS（Instagram、フェイスブック、X（旧ツイッター）など）を通じて発信していきます。

現在は試行的な運用段階ですが、体制を整えたうえで7月から

まずは多くの方に木曽町を知っていただくことが重要です。その積み重ねが、観光客や移住・定住の促進、関係人口の増加につながることを期待されます。今後は写真に加え、動画の活用なども進め、より伝わる発信が求められます。

私自身もInstagramやフェイスブック、アメーバブログなどを活用し、木曽の魅力の発信に取り組んでいます。こうした取り組みが広がり、町全体の発信力が高まることを期待しています。

小中学校の給食費 完全無償化～子育て支援をさらに強化～

6,280万円

木曽町ではこれまで、修学旅行費の全額公費負担など、子育て支援に積極的に取り組んできました。

これに加え、今年度から小・中学校の給食費を完全無償化します。

これまで給食費は公費で半分以上を補てんし、保護者には小学校で年額3万5千円、中学校で年額4万5千円を負担していただいていたが、今年度からはこの負担がすべてなくなります。

年間で数万円の負担軽減となり、子育て世帯の経済的支援が一層強化されます。今後も安心して子育てができる環境づくりを進めていきます。



学校給食の調理風景（イメージ）

中山道の景観と魅力づくり～街道沿いに山桜や紅葉 植栽～580万円



行き交う人の目を楽しませる新開黒川の花桃

観光客など来訪者にとって、地域の魅力の一つは四季折々の豊かな自然と美しい景観です。中でも春のサクラや秋のモミジなどは人気があります。

町では今年度、中山道の魅力をさらに高めるため、街道沿いにサクラやモミジを植栽します。苗木の購入費用として500万円計上されています。

このほか市街地のサイン（案内看板）や駅前広場公園の整備について委託調査（事業費80万円）を実施します。

近年はインバウンドの外国人も増えており、美しい自然と分かりやすい案内表示の充実により、来訪者の受入環境の向上が期待されます。

木の産業づくりと雇用創出～新開黒川に事務所建設など～7,020万円

町では本年度も木の産業づくりに取り組みます。木曽町新開橋詰で整備を進めている土場では、薪ステーションや事務所の整備を行います。これにかかる事業費は約5,000万円です。

また、備品として材木止め、フォークリフト、ポータブル重量計などを購入します。（766万円）

このほか町有林の整備事業として、開田高原明神日影における主伐再造林や明神牧場での植栽などを実施します。（1,130万円）

これらの取り組みにより、木材の利活用の促進とあわせて地域における雇用創出につながることが期待されます。



新開黒川に整備中の木材土場

有害鳥獣対策を強化 ～大型檻で被害軽減へ～2,756万円



トウモロコシ畑を守る電気牧柵と防護ネット 岳64頭。

農作物被害の軽減に向け、有害鳥獣対策を強化します。地区懇談会などで特に要望の多いのが、道路沿いの支障木伐採と有害鳥獣対策です。サルやイノシシなどによる被害は依然として減少せず、対策にかかる手間や費用が農家の負担となり、耕作意欲の低下にもつながっています。

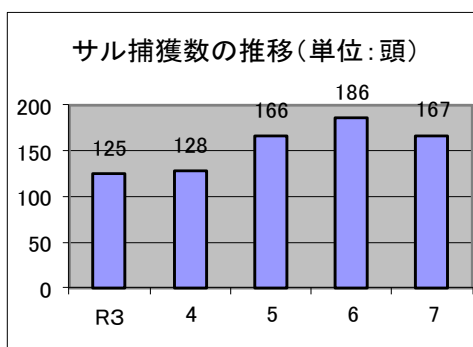
町では本年度も猟友会活動への補助や狩猟免許の新規取得者への支援を行います。さらに大型檻を2基購入しサルの効率的な捕獲を進めるほか、電気牧柵など個人による防除対策への補助も継続します。

令和7年度にはイノシシ302頭、ニホンザル167頭、ニホンジカ95頭、ツキノワグマ57頭、ハクビシン43頭などを捕獲し、被害抑制につなげてきました。

町のサル捕獲数の推移は棒グラフの通りですが、7年度の地域別捕獲数は次の通りです。木曽福島37頭、日義16頭、開田高原50頭、三

2基導入が予定されているサルの大型檻
(イメージ)

- ・サルの大量捕獲が期待できる。
- ・ボルトナットによる固定方式で移設が簡単
- ・サイズは4m×4m



資料：木曽町建設農林課

町民登場

たがわ まさひろ

田川 政広さん (83歳・木曽町開田高原) ㊟



田川 政広さん

人は歳をとるほど自由になる ～第二の青春を謳歌～

「家族がケーキにロウソクを立てて祝ってくれました」。そう笑顔で話すのは、4月1日に83歳を迎えた田川政広さん。開田高原へ移住して、今年でちょうど50年になります。田川さん一家は、最近では珍しい7人家族です。

田川さんは愛知県稲沢市の出身。春日井市の印刷会社で働いていたころ、奥さんと一緒に木曽へ旅行したことがきっかけで、開田高原への移住を決意しました。当時32歳。長男が生まれて間もない、生後9カ月のころでした。

移住後に立ち上げたのが「かいだ印刷」です。しかし、当初は資本金もなく、手書きのガリ版印刷からの出発でした。それでも年賀状や会葬御礼などの注文が次々と入り、「最初の年だけで年賀状200件を受け、近所の人にも手伝ってもらいました」と振り返ります。その後、オフセット印刷に切り替え、奥さんとともに働きながら3人の子どもを育ててきました。この間、消防団の分団班長や開田公民館長、商工会役員なども歴任。65歳で現役を引退し、現在は長男の泰隆さんが仕事を引き継いでいます。

「若いころは仕事と子育てで精いっぱい。でも今は、自分の好きなことに時間を使えるのが楽しい」と話す田川さんは、65歳を過ぎてからピアノを習い始めました。上松の教室へ5年間、その後は福島



木曽文化ホールでピアノの弾き語りを行う田川さん

の教室へ6年間通い続けました。「何年たっても初級のままです」そう笑いながらも、地元の文化祭や木曽文化ホールのピアノ発表会にも参加。今年もお気に入りの松山千春さんの『大空と大地の中で』を弾き語りする予定です。

現在の日課は、毎日バスに乗って福島へ通うこと。買い物や温泉に加え、週5日は温水プールで体力づくりに励んでいます。25メートルを歩き、帰りはクロールや平泳ぎ、背泳ぎで泳ぐのが日課です。「人は歳をとるほど自由になる。自分のために時間使って楽しめばいい」83歳になった今も、新しいことに挑戦し続ける田川さん。開田高原での“第二の青春”は、まだまだ続きそうです。

私の本棚

『京都一条戻橋 晴子のブックカフェ』（志賀内泰弘 著・文芸文庫）

日頃お世話になっている名古屋市在住の作家・志賀内泰弘先生の新刊。主人公は、安倍晴明の末裔でエリート銀行員の晴子。後継者の兄が出奔したため第28代目、安倍家・陰陽師を継ぐ羽目に。また、私生活での借金の肩代わりとしてブックカフェの店主も押し付けられる。そんなカフェを訪れた、風評に苦しむ老舗鯖寿司店の跡継ぎ、走るのが苦手なのに運動会のリレー選手になった少年らの悩みを、「言葉の力」と不思議な「霊力」で解決に導いていく……。

編集後記

人口減少や不安定な世界情勢など暗い話題が多い中、4月10日に御嶽山が県内で5番目の国定公園に指定されました。久しぶりの明るいニュースに、うれしく感じた方も多いのではないのでしょうか。御嶽山への畏敬の念を忘れることなく、この豊かな自然環境と美しい景観を、地域の宝として次世代へ受け継いでいきたいものです。



編集・発行者： 大目 富美雄（おおめ ふみお）

〒397-0301 木曽郡木曽町開田高原末川 5190 番地

電話& FAX 0264-42-3661

携 帯 090-2526-7156

E-mail info@ome-fumio.com



Facebook